

# 令和2年度 第5回 理事会議事録

日時：令和2年8月25日（火）19：40～21：00

場所：Web 会議

出席：(理事)磯野、高村、三科、小林司、有泉、北山、  
名取、古屋、菊池、井村、大西、鈴木、平賀

(部長)入倉、小林泰、秋山

書記：笠井

## 会員管理情報

慶事0件 弔事0件 施設数131

会員数928名(施設名863名 自宅65名)

### I. 会長報告(代理：有泉事務管理局长)

#### 1. 組織運営協議会

8月1日にオンライン会議で行われた。

##### ①組織体制の変更について

協会と士会の風通しをよくする目的で組織改編をする。士会代表が協会の会員(社員)となり協会活動の方針や実施等を参画していく。但し士会活動も背負うので協会方針と士会活動との板挟みの臆面は考えられることも承知した上での改編。課題を含めた新たな組織体制の構築に向け「新組織検討委員会」を設置する。委員会構成は別紙の通り。詳細は協会から会議報告書がくるので抜粋してメールする。士会としては代表を決める課題がある。

#### 2. 今後の方針

##### ①今年度の諸会議、研修会について

今年度の当士会関係の諸会議についてはオンライン会議を前提とする。研修会について学術研修は年度内にオンラインで可能であれば2回企画して下さい。他の局や委員会においてもオンラインでの実施の可否も含め検討・企画して下さい。ただし感染状況と協会の動きを見ながらになりますが、対面研修や集合の会議開催は随時検討を重ねて下さい。

##### ②各種事業の再開等について

士会として事業参加を一律に禁止するものではない。あくまでも参加する会員の所属施設の考え方に沿って活動していくことを再確認して下さい。

##### ③来年度の会費について

組織運営会議にて来年度から会館建設費として徴収していた1,000円が徴収されないことになるそうであるとのこと。(決定ではない)また、今年度の決算状況を見て来年度の協会費の減額を検討するそうである。この協会の動きを踏まえ、また、種々の研修会等が行えない状況にあっては士会費の減額も検討しなければならないのではと思っている。来年度は2,000円～3,000円程度の士会費減額について、今後検討を重ねていきたい。

有泉：会員数900名として、2,000円減額で

1,800,000円、3,000円減額で2,700,000円の会費減少となる。

磯野：来年度の会費の減額について、理事の先生方と考えを合わせていきたい。来年事業ができないから減額をするわけではなく、今年度できなかった事業に対して会員に不利益が生じてしまったため、来年度分として会費を引かせてもらうという考え方でよいか。

有泉：会長も同様の意向である。

磯野：今年度予定していた事業で実施できなかった事業を積み重ねるとどの程度になるか、有泉事務局長に出してもらった減額案とすり合わせ、決めていければいいと思う。

有泉：協会より年明けに来年度の年会費について、事務局に問い合わせがある。減額するのであれば、年末、年始までには決まっていなければならない。

磯野：12月の初めには会費の減額について、決められるように進めていく。

有泉：会長から研修会をできるだけ実施してほしいとの意向を聞いている。オンラインでの研修を実施していくためにzoomウェビナーを士会として契約する方向で動きだすのでご了承願います。

**決定** 理事より承認を得られたので、zoomウェビナーの契約を進めていく。

### II. 審議事項(全3題)

#### 1. 事務管理局財務部及び渉外部のWi-Fi環境について：(有泉事務管理局长)

前回の理事会で報告した通り事務管理局財務部及び渉外部(白根徳洲会病院)では、2部合わせてYモバイル通信量制限7G内に何とか収まっている。今回、小林渉外部長が士会50周年実行委員会の財務を担当することとなり、メール等でのデータのやり取りが増えることが予想される。また、士会理事会を含めたWeb会議参加回数も増加することが予想されるため、通信量制限のないUQへの変更をお願いしたい。現在、白根で使用しているYモバイルルーターは本来、医療保険部用の物であるが雨宮部長(中央病院)がネット環境に不足ない職場のため、そのまま白根で継続して使用させてもらっていた。そのため、本来は医療保険部に戻すべきであるが当面は必要部署があったらそちらに移すようにしたい。

磯野：そのようにして下さい。

有泉：甲府地区、石和の中心部はYモバイル無制限なのでネット環境で不都合がある場合は言って下さい。

北山：期日を決めて該当する部署があれば、有泉先生に連絡するのがよいのではないかと。

**決定** Yモバイルを使用したい部署は、理事会前の1週

間前までに有泉局長に伝えることとする。

## 2. 令和2年度公開講座について（井村企画局長）

昨年度の企画を引継ぎ「ごぼう先生」に講演を依頼することとなっているが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を受け、企画の見直し、または開催自体の見送りを検討すべきか審議をお願いしたい。

例年の傾向から高齢者が多くなることが予想されるが、感染予防対策を徹底したとしても、高齢者を対象とした集会を開催するのはリスクが高い。また、集客が見込まれないことも想定される。部としての現段階での意見は以下の通り。①現企画のままソーシャルディスタンスが確保できる会場を探す。②講師変更を含め、企画を変更する。③今年度の公開講座開催を断念し、運動啓発リーフレットや折り込みチラシを配布する。

高村：事前に井村局長から報告、相談を受けたが、③が妥当ではないか。リーフレットや折り込みチラシが予算の関係からどの程度できるかについて審議が必要ではないか。

磯野：昨年も同様の講師を呼ぶことになっていたと思うがキャンセル料はどうなっているのか。

井村：昨年、講師にキャンセル料を支払った。もし、今年度開催するのであれば、講師料からキャンセル料を引いてもらえることになっていた。

磯野：③が妥当であると思う。発信ということを考えるとリーフレットのみではなく（高齢者のみを対象とせず）理学療法士を幅広く知ってもらうために SNS などを利用することを検討してみるのはいかがでしょうか。

井村：どのように発信できるのかなど今後、検討していきたい。

有泉：理学療法士は患者様と密に接する感染リスクの高い職業である。③が妥当であると思う。企画について他の部局と協力して検討してもよいと思う。

井村：広報局がいろんなノウハウなどをお持ちであると思うので教えていただきたい。

大西：了解しました。

**決定** 公開講座に関して今年度については断念する。また、別の企画を他の部局と一緒に実施できるか検討をしていく。

## 3. 「令和2年度介護職場人材育成研修」の講師推薦について（古屋社会局長）

山梨県社会福祉協議会より2名の講師推薦依頼を受けた。内容：理学療法士から学ぶ自立支援、対象者：介護職員全般、定員：20名、日時：令和3年1月～3月までの期間の2日間、返答期日：9月30日。接触を伴う講座は難しいこと、講師派遣には病院長等の了解が必要であることをお伝えした。先方が考えている方法は①座学での講座、②グルー

プワーク、③講師の介護技術の実演、以上の方法で可能かご検討頂きたいとの話を預かった。士会として依頼を引き受けるかどうかのご検討をお願いしたい。また、引き受けた際も講師が決まらない場合が想定できる（病院長等の了解が必要であるため）その際はどうか合わせるかも合わせて検討をお願いしたい。

本講座はOT士会、ST士会も同様に行われている。先方よりOT・ST士会からもまだ、引き受けて頂けるかは連絡がないとのこと。3士会で足並みを揃える必要もあるか。

磯野：社協にOTがいるので、その方に依頼するのが一番よいのでは。

古屋：今まで3士会から2人ずつ講師として出ていた。今年度は社協のOTのみで実施してもらうのも一案であると思う。

磯野：県士会として依頼を受けたとしても、所属長が承認をしてくれるか。どちらを先に依頼するか。

古屋：講師は昨年は白根徳洲会病院の杉原先生、その前は市川部長、水上先生に依頼していた。

磯野：3人に声掛けをしてもらって、所属の承認が難しければ県士会として出せる人がいないのでお断りするのはどうか。

小林泰：必要であれば白根徳洲会病院の杉原PTに依頼してもらってもよい。

高村：3士会で足並みをそろえる必要があると思う。3士会で協議をしてから結論を出すのがよいと思う。

有泉：OT・ST士会に連絡をして確認をする。

**結果** 3士会で統一した見解を出した方がよいと思われるので3士会で協議をしてから結論を出す。講師を派遣することになれば、白根徳洲会病院の杉原先生に依頼をする。

## III. 報告

### 1. 各委員会等報告について

#### 50周年記念事業実行委員会（三科委員長）

第1回実行委員会が7月29日にzoomで開催。顔合わせ、記念事業の概要理解、活動内容の情報共有等を行った。事業の概要は大枠として記念誌の作成と式典、祝賀会を開催する。予算は士会積立金を使用。概算で4,000,000円程度の予算規模となっている。記念事業の日程の第1候補を令和3年10月24日(日)、第2候補を10月31日(日)とする。今後、第2・4水曜日を実行委員会の定期開催日とする。

磯野：特別事業積立金の4,000,000円は使用できるか。  
有泉、小林司：関ブロを含めての特別事業積立金なので全部は使用できない。

磯野：関ブロでいくら使ったか。

菊池：前回の関ブロの事情報告書を見ると、協議会費

が4,000,000円、県士会補助金が2,000,000円と明記されている。

有泉：関ブロの士会長は来賓として呼ぶ予定なので、日程などを打診して下さい。

磯野：先日の関ブロ会議で茨木県の50周年事業は11月20日(土)に変更したと言われた。事務局から日程を確認して下さい。

三科：ヤフーカレンダーに予定を入れることはできるか。

有泉：予定を入れることはできる。

北山：企画の立案で、各県の士会長に依頼をするときに、コロナの状況など当日どんな状況でも行うのか、山梨県士会として答えられる必要があると思う。状況に応じて人数制限やリモートなど検討していくことも必要ではないか。

三科：参加型が一番費用がかかるのでその部分の予算立てをして、オンラインなどのオプションなども検討していきたい。

## 2. 社会局（古屋社会局長）

### ①ダイハツ工業株式会社地域密着プロジェクト「健康安全運転講座」について

山梨ダイハツより、現在の新型コロナウイルス感染状況や他県の現状なども検討した結果、今年度は中止となった。甲府市も本プロジェクトへの関心があり、来年以降に開催したいとの話があった。動員が今後増えていくと思われるが、継続的に人員確保をしていくにはどうしたらよいか、案があれば出していただきたい。

### ②「いきいき山梨ねんりんピック2020」中止について 山梨県社会福祉協議会より9月開催予定の本事業を中止するとの通知を頂いた。

### ③スポーツ理学療法部活動一部再開

8月からチームトレーナー活動を再開。対応部員は所属長の承認を得られた部員8名。山梨学院大学女子サッカー部は新型コロナウイルス感染症の影響により外部との交流を避けるとの理由で今シーズンは対応を見合わせるとの連絡があった。

磯野：①の人員確保について、メールでの一斉送信を利用し呼びかけを行うのはどうか。

古屋：よい案だと思う。今まで個人的な呼びかけで行っていたので検討していきたい。

平賀：士会支部化の構想として、地域に根付いたものの一部を頂いてこちらで事業として人員を動員できたらと思っている。社会局と連携を図っていくことを今後、視野に入れていきたいがどうか。

古屋：富士吉田市で行うダイハツの事業、健康祭りなど、協力しながら動員をかけてもらえるありがたい。今後の協力をお願いしたい。

古屋：報告事項と関連はないが、9月に在宅医療を

考える会が予定されていたが、連絡がきていない。実際に開催するか。

小林司：確認して連絡する。

## 3. 事務管理局(有泉事務管理局長)

### ①中間監査について

昨年までは10月の理事会にて中間監査(事業監査)を行っていたが、今年度から流れを変更する。

本日の理事会後、各関係者に昨年度の総会資料を送るので4月～9月までの活動について赤字で修正後、各担当副会長等に提出する。各担当副会長等は10月上旬～中旬までに内容を精査して有泉局長に送る。総務部で監査資料(案)を作成し、10月の理事会で内容を確認して承認してもらう。11月初旬～中旬に中間監査(三役及び事務局担当部署、監事)、11月24日に理事会と全体中間監査を実施する予定。

### ②メール配信サービスの登録が280～290名ほどとなっている。今後、テスト配信を行っていく予定。各所属のスタッフにメール登録の促しをお願いしたい。

## 4. その他

### 臨床実習指導者研修会について(磯野副会長)

関東ブロックの士会長会議の中で話題に上がり、11月から開始する県が多かった。現在の山梨県の状況を教えてほしい。

高村：指導者研修会は、OTはリモートで実施しているがPTはリモートでも行えていない状況である。

小規模でも参加できる方だけで実施することを提案していくか、リモートで行えるように協会にお願いしていくか検討している。講師を出すことができるか、参加者が集まるかどうかは現状では分からない。山梨はPT・OTの協議会が9月8日に行われるので話し合いを行っていく。

平賀：帝京として講師は出せる。外部への出張は許可されている。外部の人が大学構内に入ることは難しい。できるとしても年明けに人数制限、体調管理制限をして開催できるかどうか。会場、講師、参加者の環境が整わないと開催ができない。

高村：現在、学生を構内に入れるには2週間前の健康管理と行動歴を確認している。協議会の結果を今後、報告していく。

## IV. 次回の理事会日程について

日時 令和2年9月29日(火) 18:30～

第4週は祝日と重なるので次回は第5週。

場所 Web会議

連絡 9月25日(金)までに審議事項および資料を

事務管理局（有泉理事）へ提出する。  
議題がない場合でも事務管理局へ連絡する。  
理事会資料は事前にメールで各理事へ連絡  
する。